



JTRUST

2019年12月期第1四半期

決算説明資料

2019年8月

Jトラスト株式会社



2019年12月期

1. 第1四半期 連結決算概要
2. 第1四半期 セグメント別業績
3. 業績予想と進捗状況

- 決算期変更に伴い、当期は2019年4月から2019年12月までの9ヵ月となります。
- 2019年3月期に売却したハイツ・エンタテインメント社の業績を非継続事業として分類しており、前年同期の「営業収益」「営業利益」及び「税前利益」も同様に分類して表示しております。
- 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- 説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社又は子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- 各ページに記載の数値は、原則として表示単位未満を切捨て表示しています。また表およびグラフ横に記載しております差異ならびに前年同期比等は、表示の億単位を用いて計算しております。

1. 連結決算概要

日本金融事業

信用保証業務と債権買取回収業務が安定的に推移

韓国及びモンゴル金融事業

**貸倒引当金繰入額の減少とNPL売却益などにより
営業利益通期計画進捗率76%**

上記2事業が連結業績をけん引

➤ 前年同期比は増収減益

連結業績（前年同期比）

	Q1 FY03/2019 (2018/4/1~2018/6/30)	Q1 FY12/2019 (2019/4/1~2019/6/30)	差異
営業収益 [※]	173億円	182億円	+9億円
営業利益 [※]	8億円	4億円	-4億円
税引前利益 [※]	19億円	1億円	-18億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益	14億円	-1億円	-15億円

※ 営業収益・営業利益・税引前利益には非継続事業を差し引いた継続事業から生じた金額を表示しています。

➤ 総合エンターテインメント事業のM&Aにより収益が増加

セグメント別営業収益（前年同期比）

	Q1 FY03/2019 (2018/4/1~2018/6/30)	Q1 FY12/2019 (2019/4/1~2019/6/30)	差異
日本金融事業	23億円	23億円	-0億円
韓国及びモンゴル金融事業	101億円	97億円	-4億円
東南アジア金融事業	31億円	27億円	-4億円
投資事業	2億円	2億円	-0億円
非金融事業（エンタメ・不動産）	12億円	30億円	+18億円
その他の事業	2億円	1億円	-1億円
連結営業収益	173億円	182億円	+9億円

➤ 韓国及びモンゴル金融事業が東南アジア金融事業をカバー

セグメント別営業利益（前年同期比）

	Q1 FY03/2019 (2018/4/1~2018/6/30)	Q1 FY12/2019 (2019/4/1~2019/6/30)	差異
日本金融事業	9億円	10億円	+1億円
韓国及びモンゴル金融事業	14億円	25億円	+11億円
東南アジア金融事業	-7億円	-18億円	-11億円
投資事業	1億円	-5億円	-6億円
非金融事業（エンタメ・不動産）	-0億円	0億円	0億円
その他の事業	-0億円	-1億円	-1億円
（調整額等）	-10億円	-6億円	+4億円
連結営業利益	8億円	4億円	-4億円

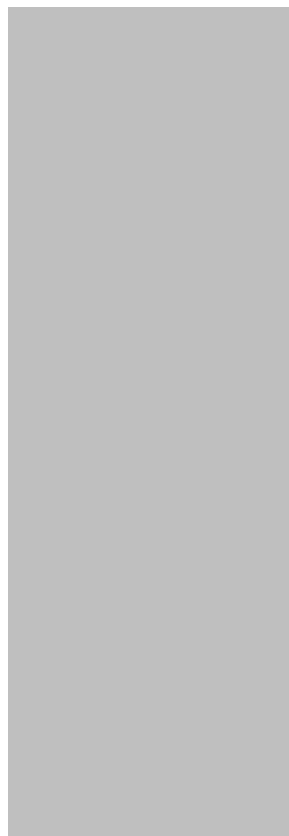
2. セグメント別業績

2-1. 日本金融事業

- 営業収益は安定的に推移
- 前期終盤から今期にかけ購入した債権からの回収金が利益に寄与

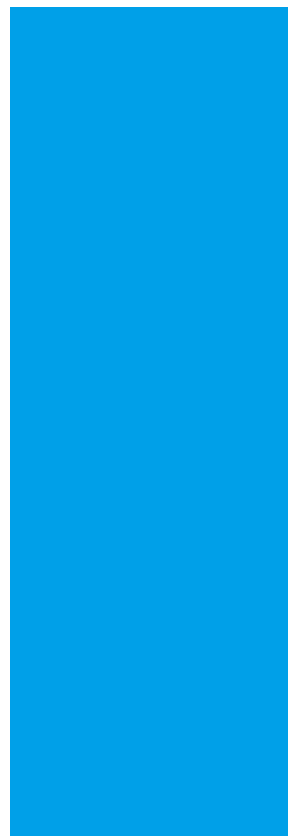
営業収益

23



1Q FY03/2019

23



1Q FY12/2019

営業利益

9



1Q FY03/2019

10



1Q FY12/2019

単位：億円

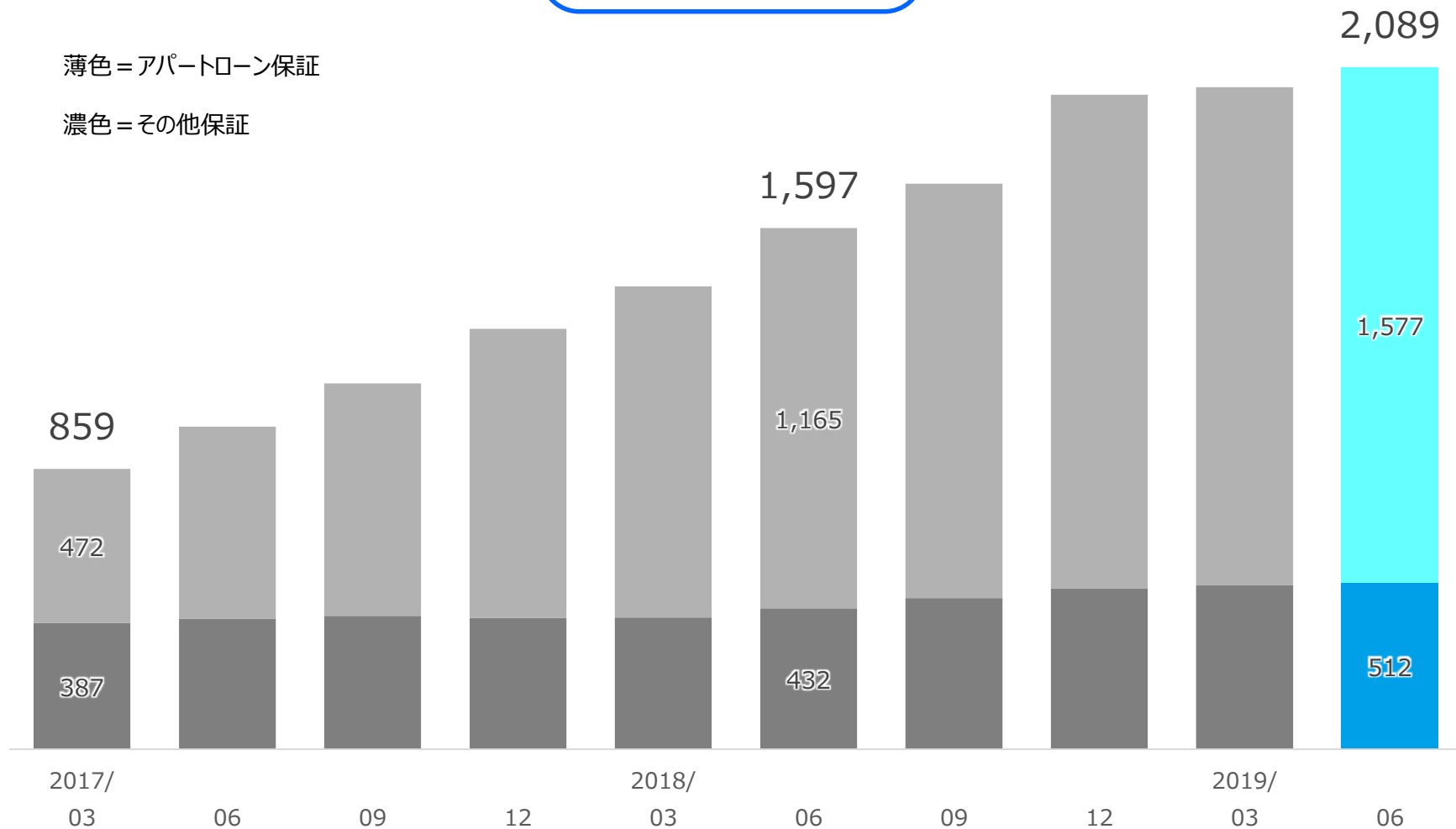
➤ 保証残高は前年同期比492億円増加

単位：億円

保証残高の推移

薄色 = アパートローン保証

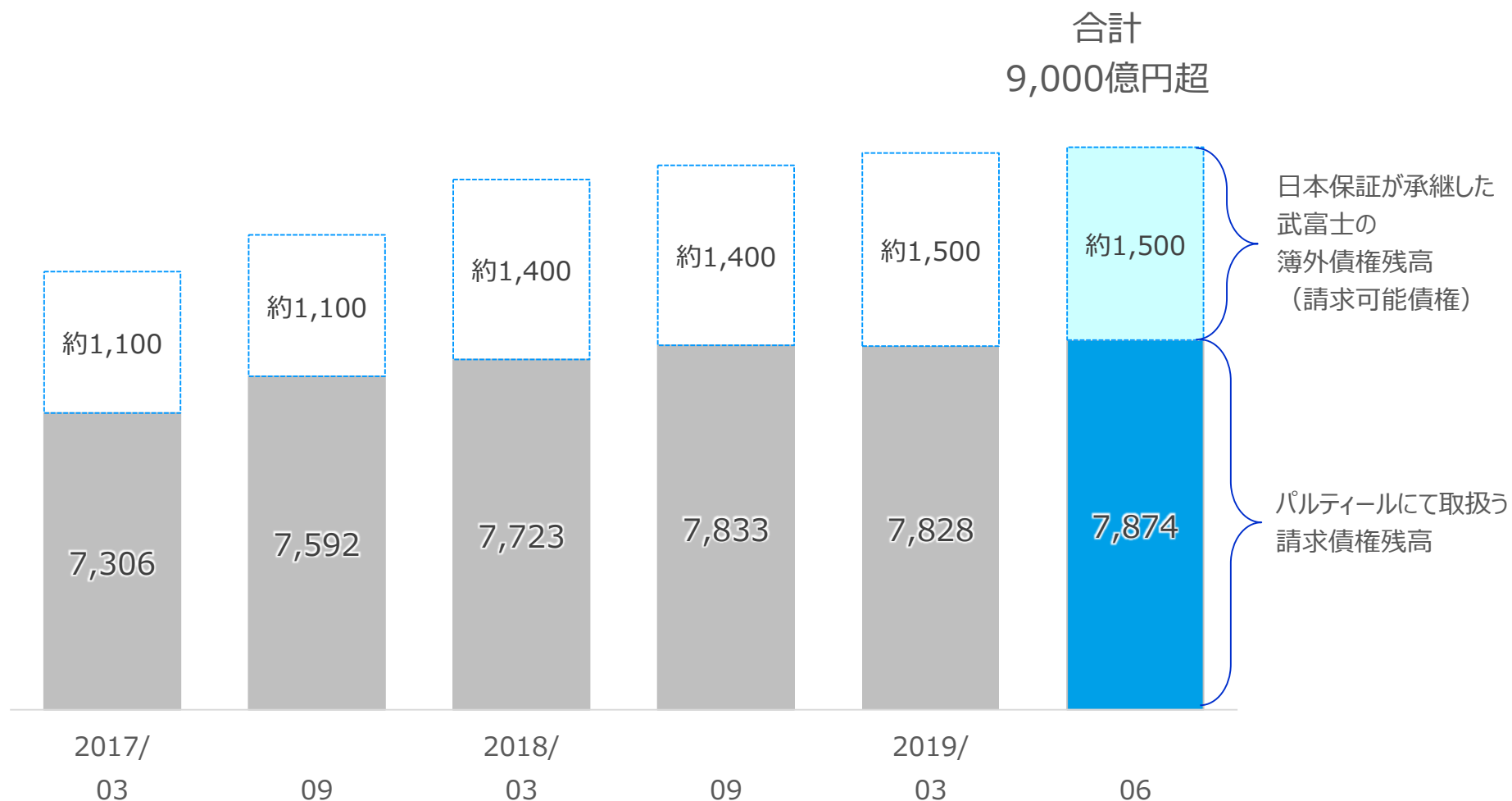
濃色 = その他保証



➤ 不良債権の買取は引き続き好調

サービサー事業における請求債権残高

単位：億円

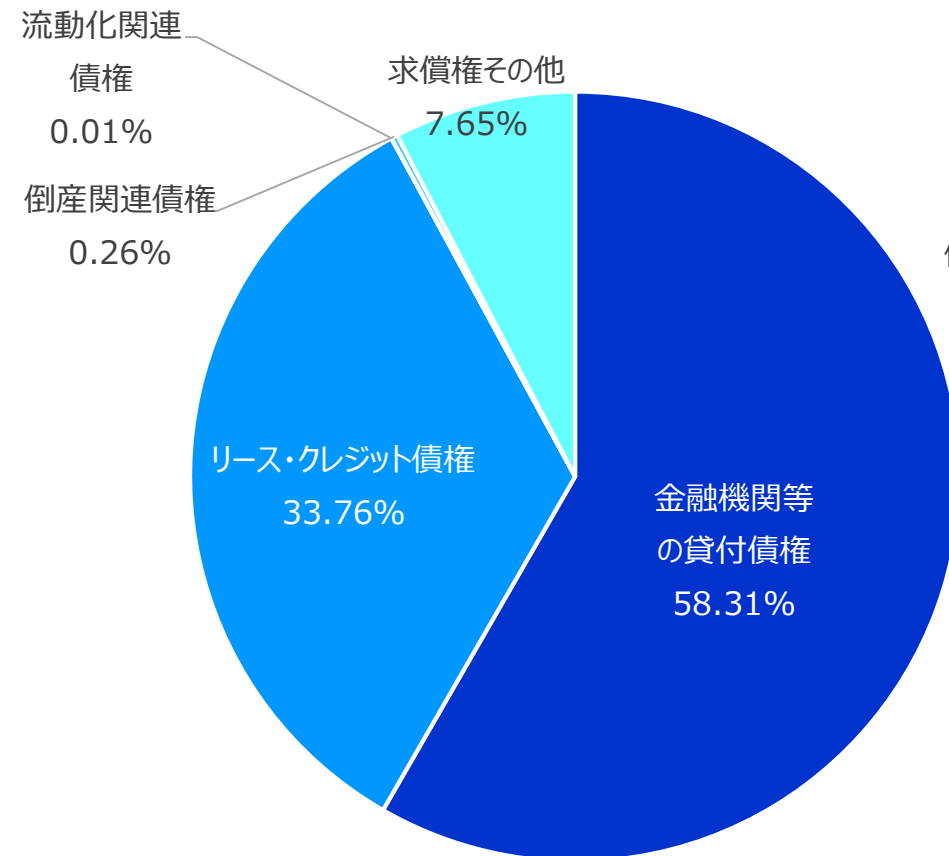


請求債権残高は買取債権および回収受託債権を含む
請求債権残高に一部オンバランス債権を含む

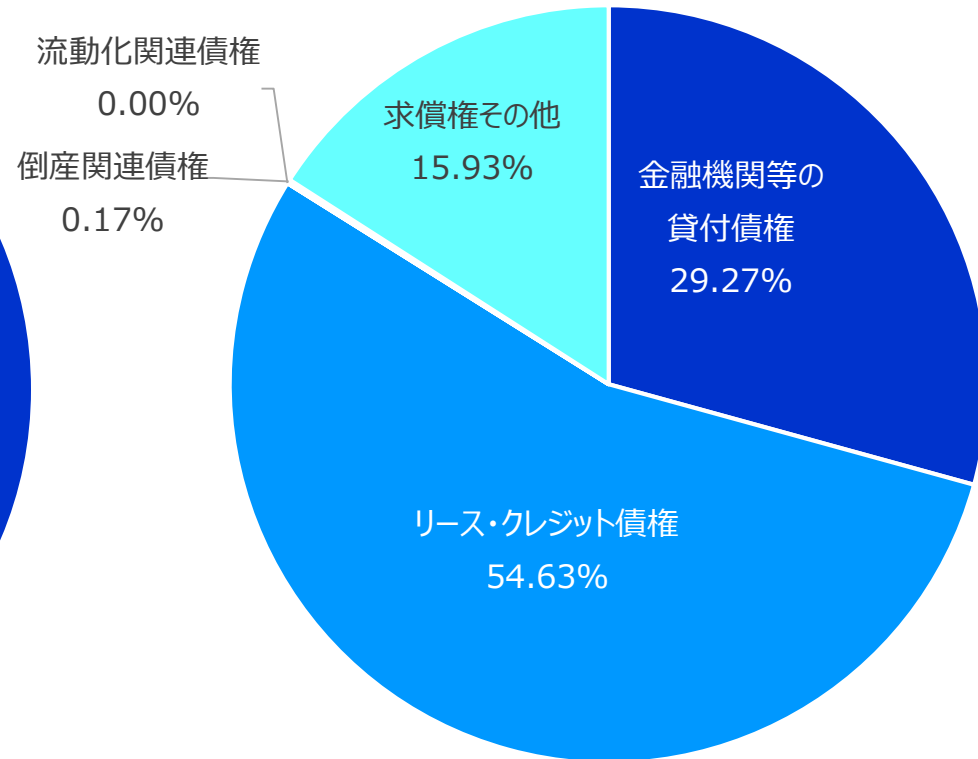
- パルティール債権回収は、リース・クレジット債権が過半数を占める
- 回収に独自の強みを発揮し、引き続き債権の買取回収を推進

サービサーにて取扱う債権数の内訳

業界全体



パルティール債権回収



2. セグメント別業績

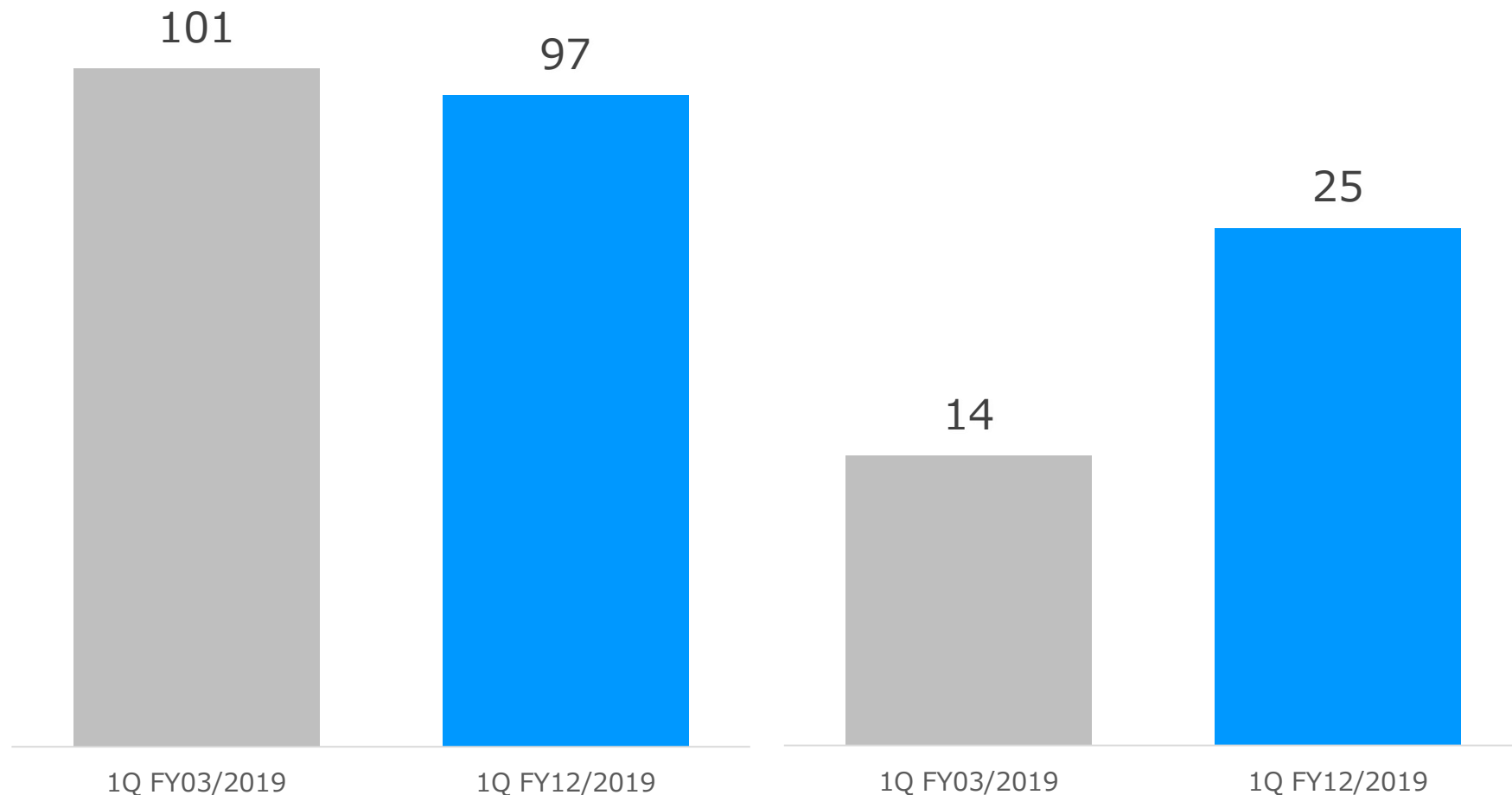
2－2. 韓国及びモンゴル金融事業

- 平均貸出金利の低下により営業収益は前期比減少
- 貸倒引当金繰入額の減少及びNPL売却益の計上により営業利益は増加

営業収益

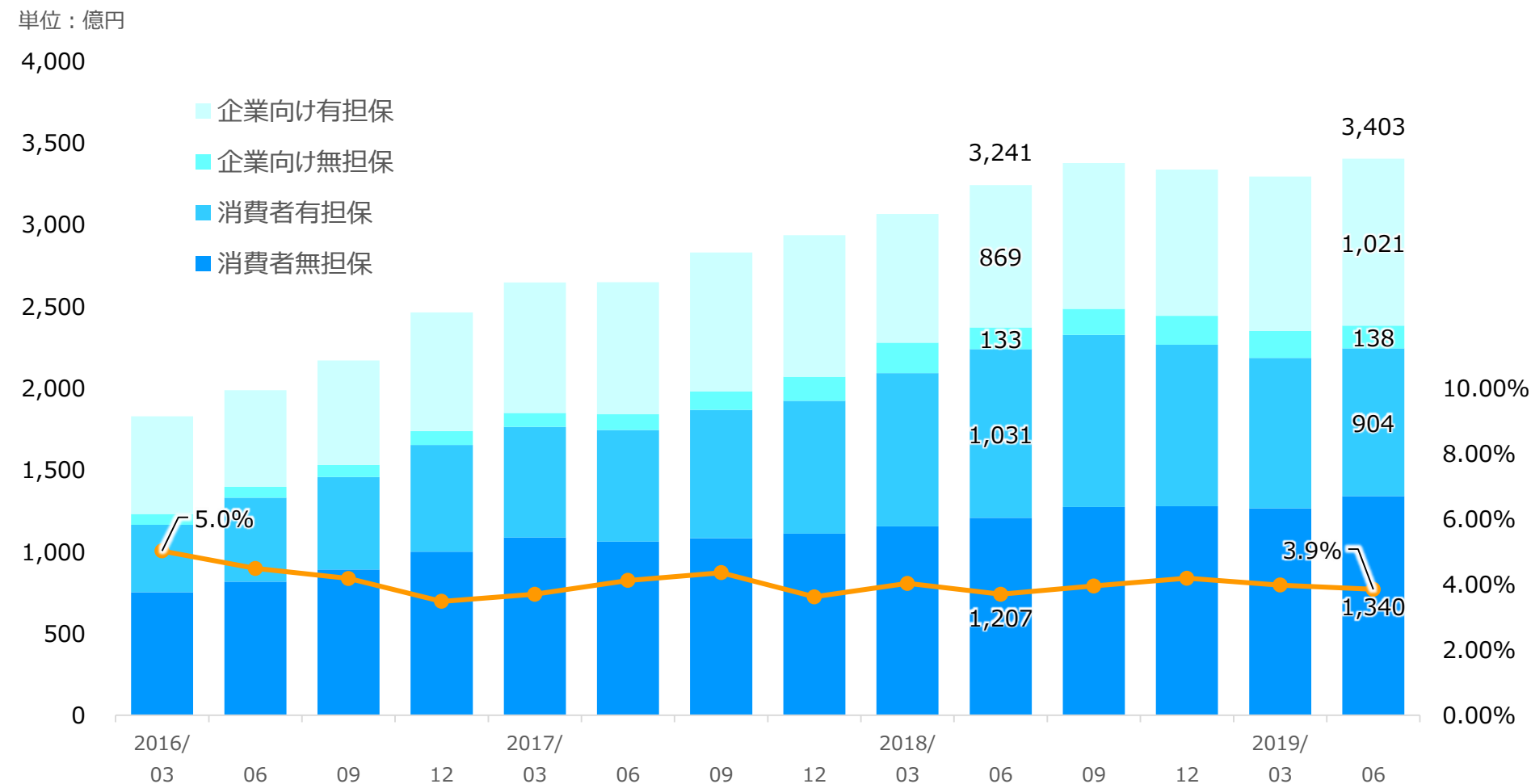
営業利益

単位：億円



➤ 債権の「質」を重視し、安定した貸出資産の維持に努める

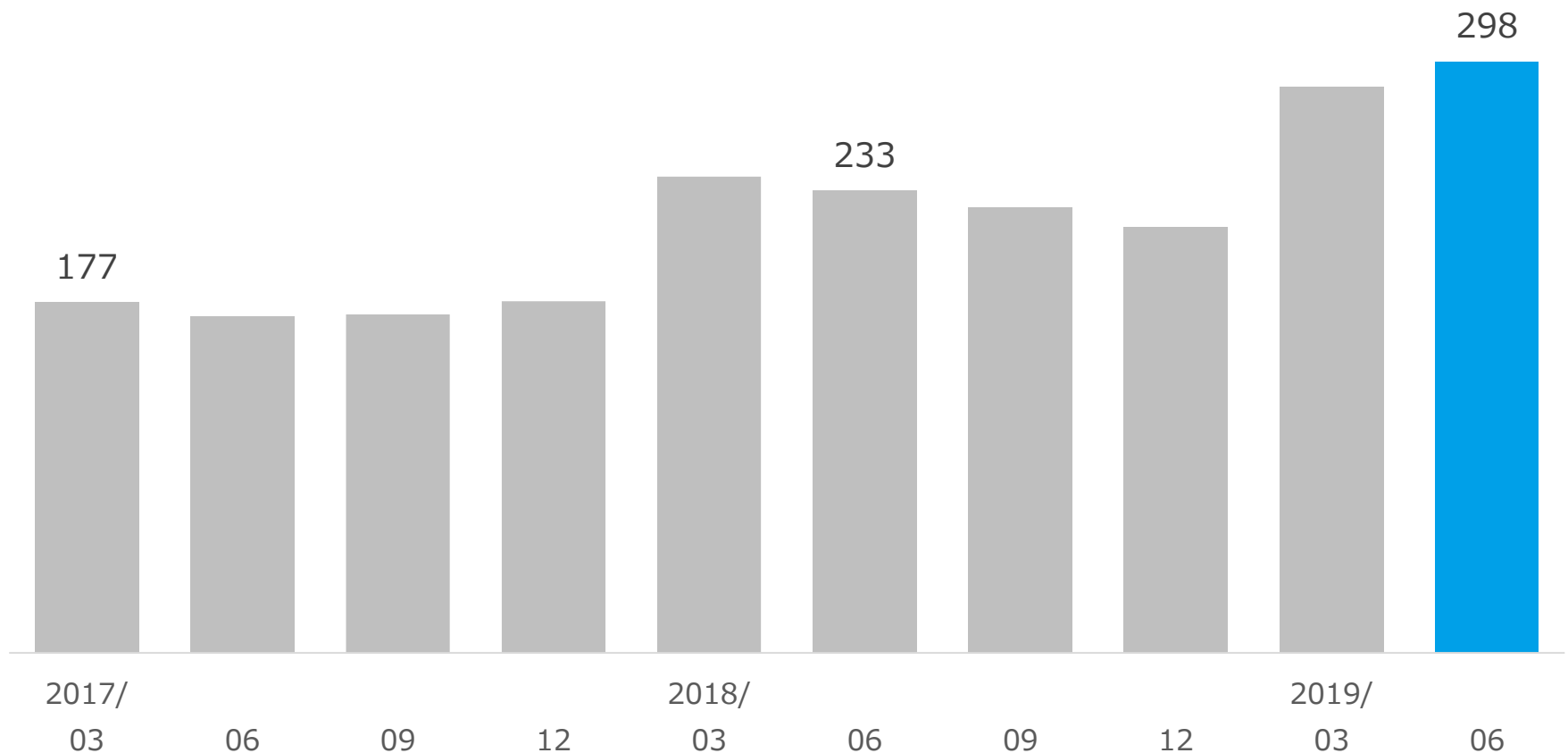
3社合計の貸出資産ポートフォリオと90日以上延滞債権の推移



➤ サービスにおける不良債権買取も順調

TAアセットの請求債権残高

単位：億円



数値は現地通貨に以下レートを乗じ表示

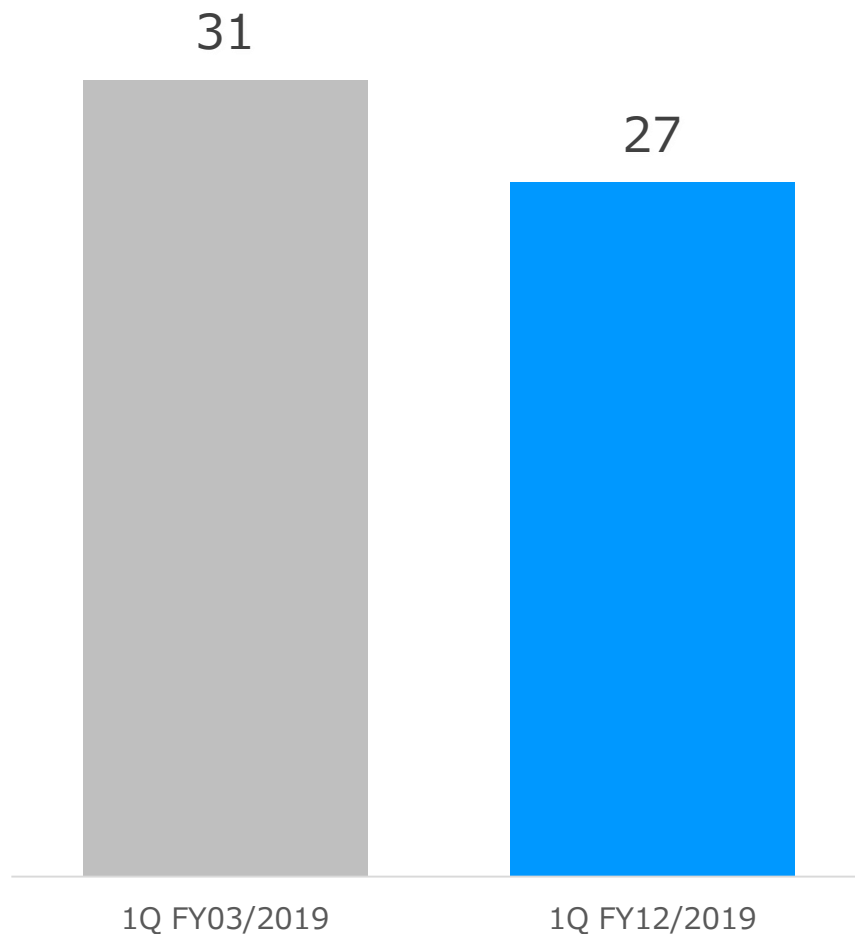
参考レート：1ウォン＝0.0933円（6月末日の決算日レート）

2. セグメント別業績

2－3. 東南アジア金融事業

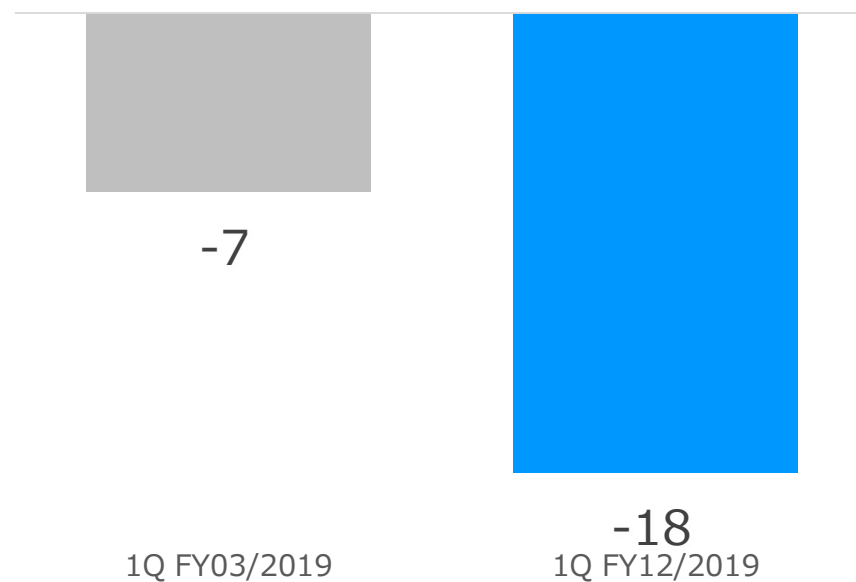
➤ 前年同期比は減収減益

営業収益



営業利益

単位：億円



➤ ハイリスクゾーンの貸付を停止、及び不良債権を処理したことにより、残高が減少

BJI : 貸出資産残高と90日以上延滞債権の推移



数値は現地通貨に以下レートを乗じ表示

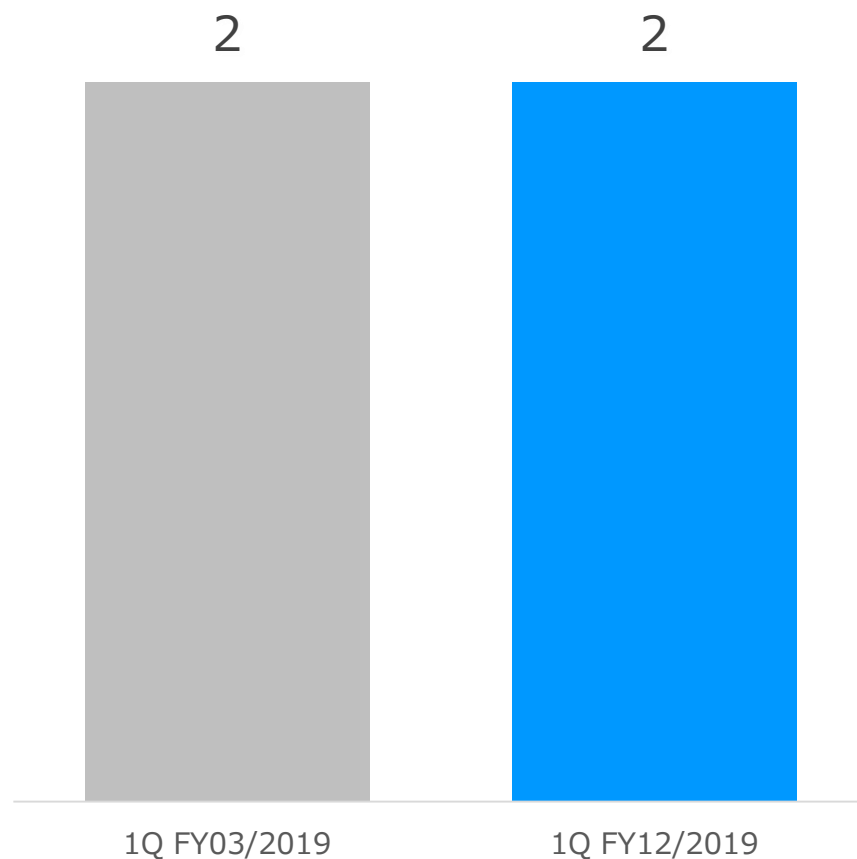
参考レート：1ルピア=0.0077円（6月末日の決算日レート）

2. セグメント別業績

2－4. 投資事業

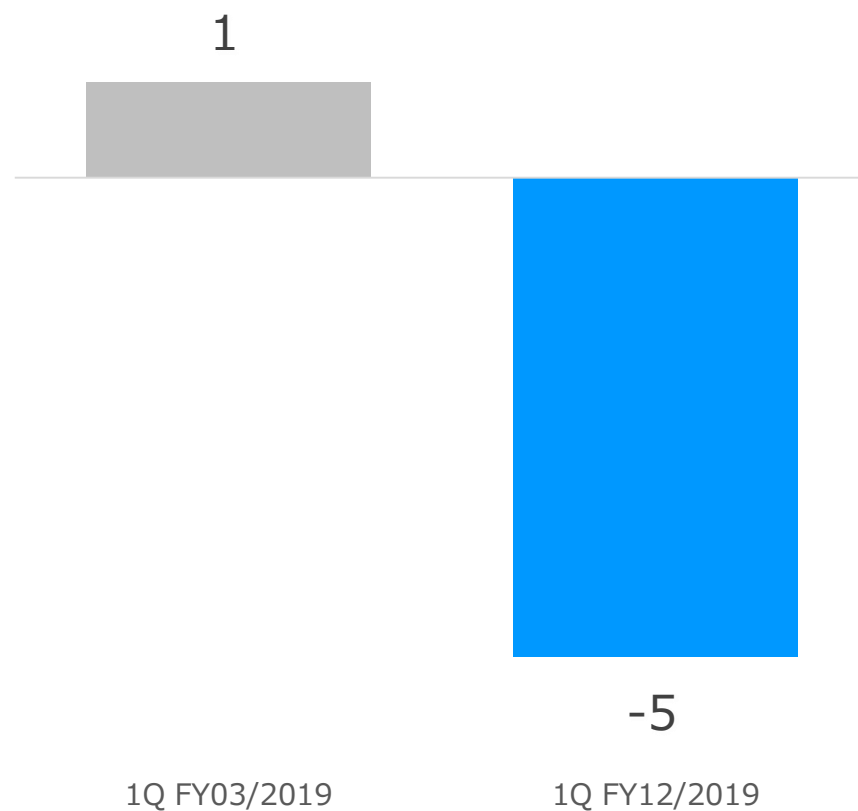
➤ 訴訟費用の増加により販管費が増加

営業収益



営業利益

単位：億円



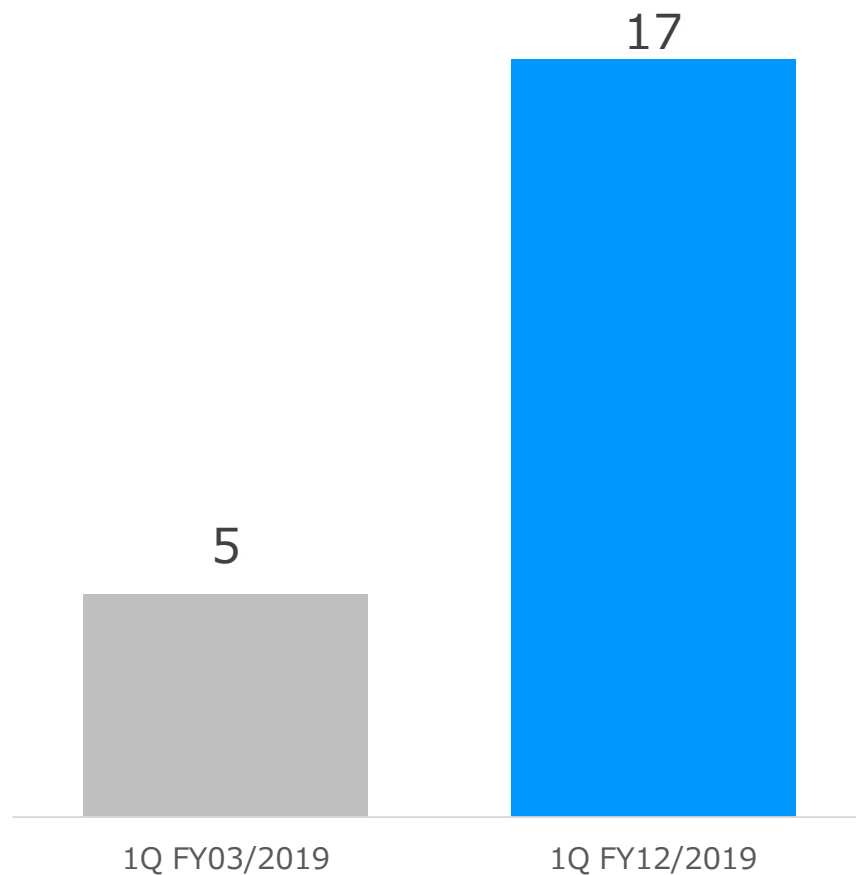
2. セグメント別業績

2－5. 総合エンターテインメント/不動産事業

(総合エンターテインメント事業)

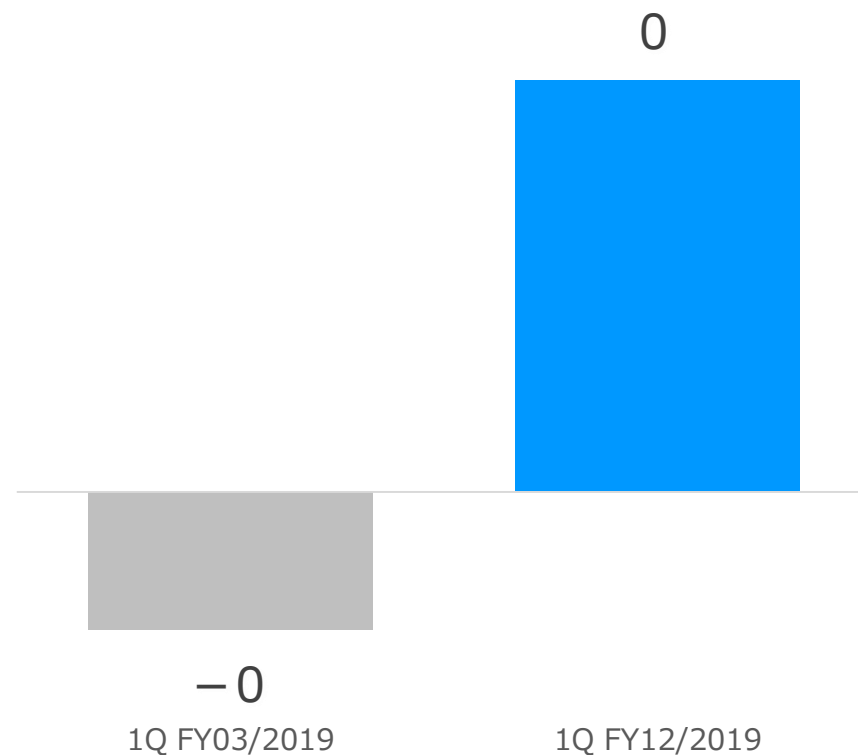
➤ オルファスやフーリンラージ[※]等のM&Aが収益・利益共に貢献

営業収益



営業利益

単位：億円

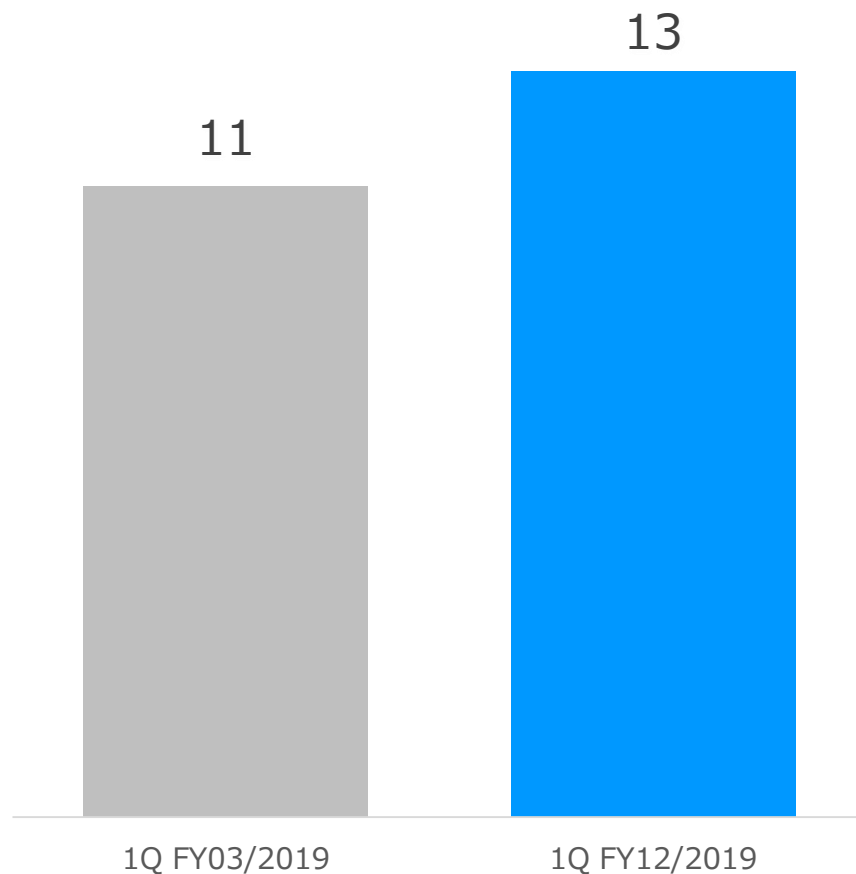


※8月1日付けユナイテッドプロダクションズに社名変更

(不動産事業)

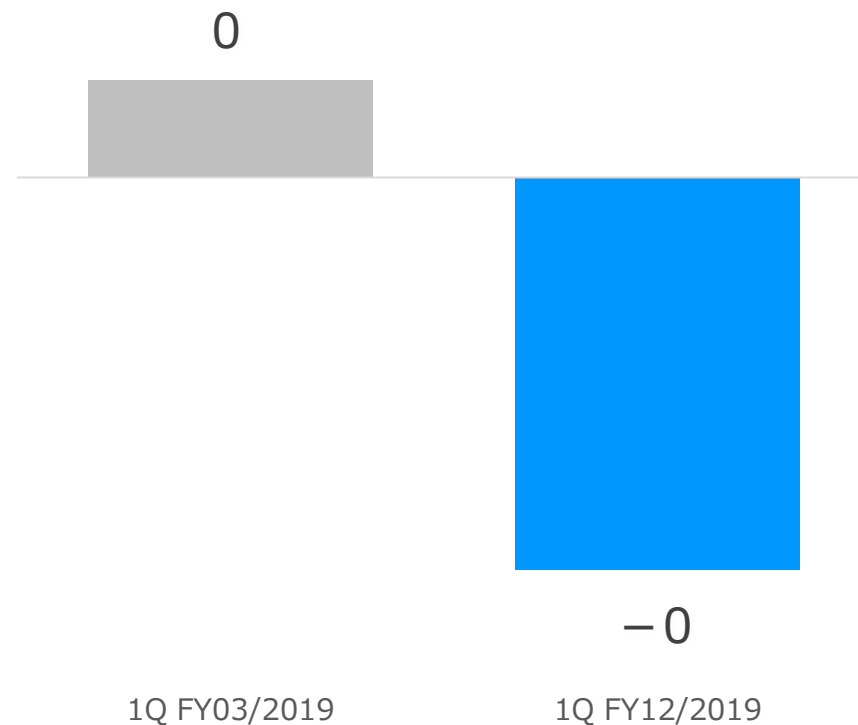
- 営業収益は増加、営業利益は売上原価の増加により前年同期比減少

営業収益



営業利益

単位：億円



3. 2019年12月期 連結業績予想

➤ 連結業績予想策定にあたっての前提条件

- 為替レートは、各国進出時から2019年3月末までの平均レートを採用しています。

1 シンガポールドル : 82.63円	1 インドネシアルピア : 0.0084円	1 モンゴルトウグルグ : 0.0437円
1 韓国ウォン : 0.093円	1 USドル : 110.99円	

なお、2019年6月末日の各レートは以下の通りとなっています。

1 シンガポールドル : 79.68円	1 インドネシアルピア : 0.0077円	1 モンゴルトウグルグ : 0.0405円
1 韓国ウォン : 0.0933円	1 USドル : 107.79円	

- 投資事業における、通常発生する損益以外の影響額は反映しておりません。

➤ セグメント別業績予想及び進捗率

セグメント別 営業収益および営業利益

		FY12/2019 着地予想 ※4/1~12/31の9ヵ月間	1Q FY12/2019 実績 ※4/1~6/30の3ヵ月間	進捗率
日本金融事業	営業収益	69億円	23億円	33%
	営業利益	29億円	10億円	34%
韓国及びモンゴル金融事業	営業収益	289億円	97億円	34%
	営業利益	33億円	25億円	76%
東南アジア金融事業	営業収益	129億円	27億円	21%
	営業利益	-17億円	-18億円	-
投資事業	営業収益	10億円	2億円	20%
	営業利益	-6億円	-5億円	-
その他/連結調整	営業収益	144億円	31億円	22%
	営業利益	-38億円	-7億円	-
合計	営業収益	643億円	182億円	28%
	営業利益	0億円	4億円	-

